



名古屋港に到着したチーク丸太と  
検品した木青連会員



贈られたベンチと木製のおもちゃを持つ  
トーゴ共和国大使と住民

# 東日本大震災の被災地支援のための トーゴ共和国からの丸太の提供について

東日本大震災の発生により、海外からもたくさんの方が支援が寄せられました。ここではトーゴ共和国からの木材の支援について紹介します。

横浜に本部を設置する国際熱帯木材機関（ITTO）が、東日本大震災の復興に少して

も役立ちたいとの思いから、昨年4月に、ITTOに加盟する熱帯木材生産国に対して、震災復興支援のための木材提供を要請しました。これに対し、西アフリカに位置するトーゴ共和国からチークの丸太を提供したいとの申し出がありました。

しかし、丸太のままでは被災地の皆さんは使用することができません。そこで、このトーゴ共和国からの支援を何とか実現させようと、日本木材青壮年団体連合会（木青連）が、丸太の受け入れを表明し、自らの負担でベンチに加工して被災地に配布することになりました。

本年2月、チークの丸太807本（約37立方メートル）が名古屋港に到着し、木青連に所属する東海地域の会員の手により、ベンチ208脚が製作されました。また、製作

に際し発生した端材も無駄にすることのないよう木製のおもちゃ27セットも併せて制作されました。

5月14日（月）には宮城県山元町でのトーゴ共和国大使館・ITTOの代表者の見守る中、木青連落合会長から山元町の齋藤町長へベンチの贈呈式が行われました。今後ベンチは9月まで岩手県、宮城県及び福島県の被災地に順次配布されていく予定で、仮設住宅の集会所や公民館などに設置され、コミュニティづくりや憩いの場として活用されます。

また、木青連の功績をたたえるため、鹿野農林水産大臣（当時）の感謝状が贈呈されることとなり、5月26日（日）に、津市（三重県）で開催された木青連の全国大会の場において、森本農林水産大臣政務官から木青連の平成23年度会長の落合賢治氏に手渡されました。



日本木材青壮年団体連合会の東日本大震災被災者支援活動に対し、農林水産大臣感謝状が贈られました。

※1 国際熱帯木材機関（ITTO）

国連条約（国際熱帯木材協定）機関として我が国（横浜市）に本部を設置する唯一の機関。1986年に設立され、加盟国は62カ国とEU。

※2 日本木材青壮年団体連合会（木青連）

全国の木材産業に携わる青壮年経営者約900名による団体。木づかい運動など木材利用拡大のための啓発活動、長期優良住宅への国産材利用推進のための技術講習会の実施など木材産業の活性化に向けた活動を展開。

プロジェクトのホームページ  
<https://www.facebook.com/#!/TogoTeakProject>